

学院長就任のご挨拶

藤原 導夫

一般社団法人・お茶の水聖書学院(OBI)は、その法人格を解消し本年4月1日をもって宗教法人・お茶の水クリスチャンセンター(OCC)へと統合されました。

思い返せば、1991年、OBIは羽島明先生、本田弘慈先生、増田誉雄先生、世良田湧侍先生方により、OCC教育部の働きの一環としてスタートいたしました。しかし、2001年には経済的危機によりOCCから独立し、新生OBIとして歩み出しました。そのOBIが再びOCCと合流することについては、さまざまな意見や感想があるかと思いますが、やはりそこには歴史的必然性と神の深い導きがあるのだということを覚えさせられております。

このような重要な時期に、世良田先生より引き継ぐかたちで学院長を拝命しましたことは、私にとりましては恐れ多いことであります。非力な者ですが皆さまと神の助けをいただきながらその務めを果たしていきたいと願っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

これからの大切な課題は、これまで23年にわたって歩んで来たOBIの歴史と伝統を踏まえ、いかにOCCとそのミッションを共有しつつ協働していくことができるかということです。そこには、OBIの歴史と伝統を重んじて活かし続けるということと、同時にイノベーションに取り組むという二つの命題が同時に求められることとなります。OCCとOBIは、「伝道」と「教育」というその使命を掲げ、常に諸教会の声に耳を傾け、それに応えていかなければなりません。

そのような課題を受け止め反映させるようにして、新しいOBIにおける2014年度の在り方やカリキュラムは刷新されています。そこでは従来の歩みと、イノベーションが融合しています。例えば、これまでの聖書科、音楽科、研究科の教育内容を大切なものとして踏まえつつ、分かつ



にくかった従来の学科を「聖書科」「教会音楽科」「生涯学習科」の3学科に整理統合したこと、学生の区分も「正科生」「科目履修生」「聴講生」等と一般に馴染みのあるものに秩序づけたこと、「説教奉仕者コース」、「牧師夫人コース」を新設したこと等々です。

OCCとOBIの統合を象徴するような幾つかの例を挙げれば、村上宣道OCC理事長とOBI学院長藤原の説教チームティーチング、これまでOCC主催で行なわれてきた柏木哲夫先生のセミナーを本年6月には双方の協力で実施する形をとったということ等があります。

いずれにしても、およそ3年にわたってOBIとOCCとは統合に向けて話し合いを続け、さまざまな試行錯誤やひたすらな努力を積み重ねてきましたが、今やっとスタート地点に立つことができたというのが正直な感想です。そして今、ここにおいて改めて皆さまと共に神を見上げたいと思っております。神ご自身がすべてのことを今日ここまで導いて来てくださったことを感謝し、神に栄光を帰す歩みを共に進めさせていただきたいと願っております。

おかげさまで、今年は聖書科15名、教会音楽科3名の新生が与えられました。そして総数66名の方がOBIで学んでおられることは感謝に耐えません。新しく歩み始めたOBIは、一人でも多くの方に学んでいただくために、これまでの入学筆記試験を取り止め、いつでも受講、入学できる体勢を整えました。また経済的理由で学ぶ機会に恵まれない方々に対する奨学金制度をも準備しつつあります。OBIでは、すでに卒業された多くの同窓生の方々が自由にクラスを受講して今でも熱心に学びを続けておられます。ぜひ同窓会の一人でも多くの方がそのように、いつも、いつまでもOBIをご活用いただければ幸いです。

今後とも相変わらずOBIに対する同窓会の皆さまのご理解、お祈り、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「神の導きと摂理のなせること」

OBI清算法人清算人 世良田 湧侍



時の流れるのは早いものです。私がお茶の水での教育活動に関わるようになってから30年ほど経過しました。その少し前に、私は世田谷区の教会の副牧師をしていましたが、導かれて郊外の町田市で新しく教会の開拓に導かれたばかりでした。そのころ1970年代には日本教会成長研究会の委員長であった故増田誉雄師のもとで私は研究会の主事をしていましたが、増田師は同時にお茶の水クリスチャンセンター（OCC）の理事でもあったため、その関係でOCCで働くようにと要請され、開拓の傍らOCC教育部で奉仕をすることになったのでした。

時はちょうどOCCのビル南館が落成したため、この地の利のよい場所をいかに福音のために活用するかということで、教育部が活動を始めたのでした。1983年から羽鳥、本田師を講師の中心にしたレイマン・リーダースhip・セミナーが始まりました。教会成長のかぎは信徒活動にあると信徒セミナーを開催していましたが、初め100名以上であった受講者も、年々少なくなっていき、1980年の終わり頃には、1クラス10名を切るまでとなりました。そこで「お茶の水聖書学院＝OBI」という学校組織の構想が話されるようになり、1991年から信徒のための聖書学院として開校する運びとなりました。その当時はバブル絶頂期を過ぎて間もない頃でしたが、それが崩壊し10年ほどでOCCの経済破綻が顕在化してきました。その結果OCCはOBIまでは資金が回らず、やむなく別組織とならざるをえませんでした。

それはまた私個人にとってはOCCを退く年齢でもありましたので、そのまま、経済的に独立した新生OBIで教務主任として再出発したのでした。OBIの同窓会、後援会や会計役員の方々の経済的なご尽力と、独立後まもなく奇跡的に始まった山崎記念財団とヤマザキ製パンからの多大な経済支援に支えられて、それからの十数年が経過しました。すべて神のご摂理でありました。新生OBIははじめは中間法人として、後に一般社団法人として支えられ、神の不思議な恵みとみ守りを戴いたのでした。そうした中でしたが、OBI創設以来の初代増田学院長はOBIの将来を考えると経済的な安定はOCCで始まった働きなのだから再び組織的に合同できたらいい

ののだがと漏らしておられました。その後4年前に急に召天された後を受けて学院長を受けもたせて戴きましたことは皆様のお祈りのお陰でした。このたび、今年の4月から不思議な神のご摂理によって、再びお茶の水クリスチャン・センターの宗教法人組織に統合することとなりました。そのためにはOBIの法人組織を一旦解散しなくてはなりません。それに先立ち昨年の11月に次期学院長の藤原導夫先生にあとをお願いすることになりました。わたしは理事長として、また解散に向けては「OBI解散法人清算人」として早めのバトンタッチをすることが、助走と継走のつなぎ期間の速度が落ちないコツと考えてのことでした。OCCのスタッフ方のご協力で事務手続きは順調に進み、この7月には最終的にOBI旧法人が解散を登記できる運びとなっております。お陰さまで、個人的には私も今年で後期高齢者の仲間入りを致しました。神の許しのもとで年齢相応の奉仕をと考えております。これまでのお祈りとご支援にこころから感謝を申し上げます。

OBIの合言葉、「主に仕え教会に仕える」、「感謝、感激、感動」などを懐かしくこころに留めながら自ら実践させて戴きました。また、卒業されました皆様方の置かれたところでの働きが、健康で活躍なさいますようお願い致します。なおOBIが末永く主のご再臨まで継続して多くの宣教の働き人が興され、養われますようにお祈り申し上げます。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。・・・主の御告げ。・・・それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

（エレミヤ書20章11節）

教会音楽科のご紹介とご案内



OBI教会音楽科講師 植木 朋子

同窓会員の皆様いつもOBIの為に祈りお支えくださいます。有難うございます。

ニュースレターは毎回楽しみにしています。

と申しますのは、私の担当している声楽レッスンコースで学ばれたOGの方々のお証が掲載されているからです。

また会員の皆様方からのご家族の救いや数々の生きて働かれる主の尊い御業に触れる幸いを共有させて頂けるからに他ありません。

今まで23年間信仰あつく熱心に学ぶ学院生を多くOBIに送ってくださった神様に感謝で一杯になります。

「私の神はキリストイエスにあるご自身の栄光の富をもってあなた方の必要をすべて満たしてください。」

(ピリピ 4章19節)

前置きが長くなりましたがOCCとの統合によって音楽科は一般コースと専攻コースが教会音楽科として一つの名称のもとに組み込まれスタートしました。

教会音楽科

総合コース (教会音楽講義、実技3科目を総合的に3年間で学ぶ)

選択コース (教会音楽講義、実技1科目を選択)

レッスンコース (実技、声楽、オルガン、ピアノの中より選択)

以上大きく3つのコースに分かれています。

自分の使命希望ニーズに合わせて学ぶコースを選択できます。

現在、教会音楽科の学院生は16名です。

以下担当の先生が各クラスの紹介を致します。

教会音楽科の為に祈りくださり特別行事やイベントにご参加くださいますようにご案内いたします。

レッスンコース(声楽):第2,4木曜日 担当 植木 朋子

前期後期の二期制 時間10:30~17:00 個人レッスン 45分

声楽コースはOBI創立時より23年にわたり開講してまいりました。現在、学院生3名。

◎自然な正しい呼吸法と美しい響きを伴う発声法を培います。豊かな音楽表現と聖書信仰による賛美を目標に祈りと共に学んで参ります。受講生のニーズに合わせてレッスンを進めていきます。随時聴講可能です。

一度皆様お顔をお見せください。声楽レッスンコースで学ばれたOGの方々はあちこちの教会、音楽会、コンクールにて活発に動いています。毎年夏期コンサートにて在校生、OGと合同の良き時を持っています。

今年は7月21日(祝日) ウェスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会にて14:30より入場無料にて開催されます。ぜひご来場くださいますようお願い申し上げます。

レッスンコース(オルガン):第1,3水曜日 担当 内藤 真奈

其々の受講生のレベルに合わせた個人レッスン(1回45分)を行っています。

教会奏楽者の方々、また奏楽者となる備えをしておられる方々も熱心に楽しく学んでおられます。

レッスンでは、礼拝の前奏曲の演奏法、会衆賛美の伴奏法を中心としつつ必要に応じて独奏賛美などの演奏にも用いることのできる曲を指導しています。見学、受講は随時歓迎です!

総合コース(賛美歌史):第2,4火曜日 担当 近藤 はるみ

旧約聖書の時代から現代にいたるまで、主を信じる人々が、どのような賛美をお捧げしてきたか

聖書や様々な書物を通して学んだり各時代の賛美を聴いてみたりしています。

歴史の流れの中で、賛美がどの様に変遷していったか考察し、聖書が賛美について語っていることに耳を傾けることで、賛美に対する理解を深めていかれたらと願っています。

総合コース(オルガン):第2,4火曜日 担当 斉藤 とし子

院生の皆さんの音楽歴は様々ですがオルガンは初めての方ばかりです。

一日、お仕事、家事に追われての夕方から夜のレッスンは本当に大変だと思います。

皆さんご自宅にオルガンがあるわけではなく、仕事が終わってから教会やOBIのオルガンを借りての練習

その労苦には頭の下がる思いです。

「主と教会に仕える」ために労しておられる院生の為にお祈りして下されば幸いです。

総合コース(声楽):第2,4火曜日 担当 遠藤 かおる

学生時代に声楽を専攻された方から初心者の方まで各レベルに合わせての個人レッスンです。

身体を使った発声法と言葉を伝える歌唱法を学びます。

総合コース(聖歌隊指導法):第2,4火曜日 担当 遠藤 かおる、近藤 はるみ、斉藤 とし子

3人の教師が1年ごとに交代で指導、指揮法や呼吸法を学び共に賛美します。

2014年5月19日（月曜日）同窓会発表内容 OBIの現況と近況報告

いつも多大なご支援とご協力をいただいていることを心から感謝申し上げます。

お茶の水聖書学院は、神様の摂理的な働きと皆様のご理解とご協力によって、本年4月1日にOCC（お茶の水クリスチャンセンター）に統合することとなりました。これからは宗教法人OCCお茶の水聖書学院となりますので、これまでの一般社団法人としての法人解散手続きを進めております。既に5月現在、解散登記を済ませておりますが、清算事業は決了登記をする7月まで続くことになりますので、引き続き覚えてお祈りくださいますようお願いいたします。

さて、お茶の水聖書学院にとっての大きな課題は、これまで23年に渡って築かれてきたOBIの歴史と伝統を踏まえ、いかにOCCとの新しいミッションを共有し、協働していくかであろうと思います。学院長の藤原導夫師の指導のもとに、教務としても、信徒奉仕者の教育機関として、これまでの伝統を踏まえ、大胆な構想をもって働きを進めてまいりたいと考えています。

こういうわけで、2014年度、大きく制度的に変化させているところがあります。これまでの「聖書科」、「研究科」は、「聖書科」、「生涯学習科」に整理し統合すると同時に、「説教奉仕者コース」、「牧師夫人コース」を新設いたしました。また、「教会音楽科」と「一般音楽科」は、「教会音楽科」に一本化し、学生の区分も、それぞれ「正科生」「科目履修生」「聴講生」（教会音楽科は「レッスン生」）等と一般に馴染みやすいものに変更いたしました。

また、カリキュラム面においても、新しいOBIは、OCC主催の働きに共同して斬新なテーマをもとに、特別講座を開催しております。6月に開催予定の柏木哲夫氏の特別集中講座です。10月予定のOBI記念支援コンサート、ぜひ、積極的に参加していただきたいと思います。

さらに、2013年度以来整備されてきたOBIの支援体制も自立的、発展的な歩みを進めています。学院生会は、OBI行事の実働的な支援、同窓会は、OBIの卒業生の懇親の促進、そして後援会は、OBIの教育事業を経済的な面からサポートするというそれぞれの特徴を活かした活動が進められてきています。今後もOBIは、学院生会、同窓会、後援会としっかり連携をして働きを進めてまいります。

お茶の水聖書学院教務主任 福井 誠

なお、2014年の登録状況についてですが、皆さまのご協力により、以下のような状況であり、昨年後期よりかなり登録数が伸びていることは感謝なことです。

	2013年（後期）		2014年（前期）	
聖書科	研究科生	11	継続研究コース生	15
	本科生	6	正科生	5
	専修科生	5	科目履修生	6
	聴講生	7	聴講生	15
	通信科生	9	通信科生	9
小合計		38		50
教会音楽科	総合コース	1	総合コース生	2
	選択コース	6	選択コース生	4
			レッスンコース生	10
一般音楽科	オルガンコース	3		
	声楽コース	3		
小合計		13		16
総合計		51		66

以上、OBIの近況について簡単に述べましたが、教育事業は非営利的に使命感をもって進めなければなりません。経営的な面も考慮に入れながら、皆さま方から多くのアドバイスやご協力をいただきたいと考えております。どうぞ、日本の宣教の1%の壁を破るような、聖書教育事業を進めてまいりたいと思いますので、続けてお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

<お詫び>

2014年度のサマースクーリングは、OBI/OCC統合等の大きな変化に時間と労力を要することから6月開講の柏木哲夫師特別セミナーに振り替えることになっておりましたが、その旨連絡が徹底しておりませんでした。教務よりお詫び申し上げます。2015年度は、7月にサマースクーリングの開講を予定、準備を進めていく所存です。ぜひご協力をお願いいたします。

会計報告

2013年度 OBI 同窓会 会計報告

(2013.4.1~2014.3.31) 単位: 円

収支	項目	予算	実績	差額
収入	前年度繰越金	158,306	158,306	0
	維持献金	150,000	186,000	36,000
	感謝献金	150,000	104,649	-45,351
	同窓会活動費	40,000	0	-40,000
	収入合計	498,306	448,955	-49,351
支出	事務費	40,000	71,082	31,082
	通信費	60,000	102,530	42,530
	同窓会活動費	200,000	0	-200,000
	OBI維持準備金(協力献金)	150,000	0	-150,000
	予備費	48,306	0	-48,306
	雑費	0	61,705	61,705
	支出合計	498,306	235,317	-262,989
	次年度繰越金		213,638	

献金者 献金者敬称略、献金日順記載 (2013.4.1~2014.3.31)

石井由紀	渡辺英子	堀口容子	田畑勝敏	森本 龍
窪田淳子	島田裕子	田中恵子	浪井弘子	三浦喜代子
福井ちよ	中島総一郎	牧野三恵	米田由起子	門馬正衛
倉内一寿	永井みよ子	糸満みゆき	戸川信生	猪狩友行
町田恵子	有田貞一	有田美栄子	高崎公子	国東恵子
宮内芳枝	鬼京由紀子	依田和子	阿部幸平	山本しづか
菊田洋子	小宮明子	高沢茂雄	日名富子	加茂庸一
小林喜久男	杉山礼子	梅澤近子	須子 都	木下順子
安藤良一	横田孝子	阿江美知代	小澤ナオミ	小林則義
石塚幸子	伊藤洋子	三友庸子	西口修八	飯島多稼夫

複数回、献金を捧げてくださった兄弟がおられます。

献金者 50名 (維持献金 62件 感謝献金26件)

会計報告

1年間のお恵みを感謝いたします。

皆さまのご協力をいただきまして、同窓会も維持されました。

複数回献金くださった兄弟もおられ、ありがとうございました。

おひとりおひとりに神さまからの祝福が豊かにありますように。

主にありて。

2014年4月1日

会計 吉村瑞美子

会計監査報告

上記の結果、会計監査を行いました。

記載内容は間違いなく正しく示していることを認めます。

2014年 4月15日

会計監査

日名富子



予算報告

2014年度 OBI 同窓会 会計予算案

(2014.4.1~2015.3.31) 単位: 円

収支	項目	前年度実績	今年度予算
収入	前年度繰越金	158,306	213,638
	維持献金	186,000	190,000
	感謝献金	104,649	100,000
	同窓会活動費	0	0
	雑収入	0	0
	収入合計	448,955	503,638

収支	項目	前年度実績	今年度予算
支出	事務費	71,082	10,000
	通信費	102,530	110,000
	同窓会活動費(会議費・交通費・郵便費)	0	150,000
	OBI維持準備金(協力献金)	0	100,000
	雑費	61,705	0
	予備費	0	133,638
	支出合計	235,317	503,638
	次年度繰越金		213,638

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」使徒16:31

「今日、病院へいくから一緒に行きたくらい。」夫からの頼みであった。思えばここ1-2カ月、夫の様子はどうかしたのかな?くらいでは済まない状態であった。

物事に集中できない、翌日の会社の持ち物を異常なまでに気を使い、朝がなかなか起きられない等々。定年を5-6年後に控えた時期であった。

病名はうつ病。わたしは妙に納得し二人で帰った日のことを思いだす。

夫は会社の仕事も忙しく、朝早い出勤で夜も遅かった。ちょうどこの時期、埼玉に住んでいた老いた夫の両親からたびたび呼び出され、ふたりの相談ののって後、高速の帰路、また電話で呼び戻されるなど、日々の処理能力をオーバーしていたのだ。

やがて会社へも行けない日が続くようになった。わたしは病を理解し、納得したはずなのに、今この時期に「神さまどうしてですか。」と文句を言い、問い続ける日々だった。

しかし、この時期もまた神さまの御手のなかにあった。

未信者の夫との結婚であったが、私は夫はすぐに神さまを信じるであろうと気軽に考えていた。今思うとなんと肉体的な傲慢な思いであったかと恥ずかしくなる。

結婚にさいして私自身は信仰生活を第一にしたいこと、日曜日は必ず教会へいくことを了解してもらった。3人の子どもに恵まれ、夫は日曜日の教会への送り迎えは欠かさずしてくれた。(田舎での教会生活にはどれほど助かったことか)が教会の中に入ることにはなく礼拝が終わるまで時間をつぶしていた。なんとしても夫には信仰を持ってほしいという切なる願いは結婚以来いつもあった。

そんな私に神さまは、一つのみことばをくださった。上記の使徒の働き約束のことばだった。それからこのみことばを握りしめて祈り続けた。

やがて上の子どもが小学校に入り転勤生活が始まった。大阪にいたときには3人の子どもと夫の父親(埼玉)が受洗の恵みにあずかった。結婚して10年、20年と過ぎ、30年過ぎる頃に夫に異変がおこったのだ。

人間のちからではどうすることもできない状態のなかで、神さまは確実に働いて下さっていた。会社の常務のひとり(夫の上司)がクリスチャンであった。この方は夫に「会社のことは何も心配なくていい。奥さんがクリスチャンと聞いているが日曜日には一緒に教会へいったらどうか。」ゆっくりするようにと勧めてくださった。

それから夫の求道生活がはじまり、この世の価値観から神の世界の価値観へ方向転換へと導かれていった。2000年8月25日夫受洗。結婚33年目。そして病気の快復。

—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—

エペソ2:5

神さまの深い憐れみに感謝しつつ。

私の集う教会では、毎夏、軽井沢で三泊四日のファミリーキャンプがもたれます。7年前、そのキャンプに参加して、主人は救われました。しかし、それに至るまで、ただ一人の人を救うために、実に緻密に練られた神のご計画があったこと、それとともに、サタンとの激しい妨害があったことも、確かなこととして思い出されるのです。

「おれはいいよ。」キャンプに誘うたび、木で鼻をくったような返事が返ってきました。それで息子と他の参加者を乗せ、ほとんどの年を私が運転して軽井沢を往復していました。でもとても地理を覚えるのが苦手な私には、横にナビ代わりの人に乗ってもらうことは必然、欠くべからざることでした。それが7年前、14年間乗った車を買替えなければならなくなりました。キャンプの直前のことでした。そして、その年は、ナビ代わりに私の車に乗ってくれる人も、私に代わって運転してくれる人もいませんでした。本当にそれぞれの理由で一人もいなかったのです。慣れない車を、ナビを頼りに運転するおっくうさから、私は主人に頼み込みました。「運転してってくれるだけでいいから。集会、出なくていいから。」結果、まったくもって渋々、という感じで主人はオッケーをしてくれたのでした。でも、出発の前夜、息子に預けたはずのカメラが見つからず、穏やかを取り柄の主人が、色をなして息子を叱りつけたのです。そのうえ、要領を得ない息子の返事に、あろう事か、手さえたのです。それはいまだかつてなかったことであり、多分、これからは二度とないことだろうと思います。少しあとになって、私は息子に言ったものです。「パパがあなたを叩いたあの時ね、あれはサタンがパパにそうさせたのよ。」息子はすっかりそのことを忘れていましたが。

さて、なんだかんだあっても、無事キャンプ場につきました。翌朝からの計五回の特別講師によるメッセージ。「いやだったら、参加しないでもいいよ」という私に、「いや。出るよ」と主人は全てのプログラムに参加しました。「ご主人、本当に熱心にメッセージを聞いておられましたね。」

これはあとで複数の方に言われたことです。その間にも神のご計画は着々と進んでいました。帰りの車の中で主人が宣言するように言いました。「俺、毎週礼拝に出るよ。上田先生(牧師)と約束したから。」

先生と約束したから、はずっと信仰を拒んで来たことへの理由付け、また私への照れ隠しでもあったのでしょうか。翌年のイースターに主人は洗礼を受けました。私が受洗して17年が経っていました。

その年のキャンプを思い出したとき、その頃宣教師としておられたシスターが私に囁いた言葉を思い出します。「これはあなたのご主人のためだけのキャンプです。」参加者でノンクリスチャンは主人だけだったのです。まったく、その主人に向かって神様のあわれみのピンポイント攻撃がなされたんだなあ、と思います。

編集後記

有田貞一同窓会長は急性胆嚢炎のため、6月18日胆嚢摘出手術を致しました。

手術は無事終了致しましたが、2、3週間入院しなければならないとのことでした。

そのため、今号の同窓会ニュースレターは、入院中の有田会長から直々の電話要請により、私、戸川が編集を引き受けて発行致しました。

有田会長がそれぞれの方に原稿依頼済みでしたので、予定通り原稿も集まり、編集作業も順調に進めることができました。

新年度から、OBIとOCCIは統合し、OBIは新体制でスタートいたしました。新学院長の藤原先生に就任挨拶を前学院長の世良田先生に退任挨拶を書いていただきました。教務主任の福井先生にはOBIの近況を書いて頂きました。音楽科について、植木先生を始め、担当の先生方に書いていただきました。また、前号に続いて同窓会2名の方にご主人の救いのあかしを書いていただきました。

有田会長はすでにリハビリに入っておられます。1日も早い回復をお祈りいたします。

(戸川)